

8月6日 No.875

2007年(平成19年)

週刊 月曜発行

発行人 小田 太一

平成元年9月22日 第3種郵便物認可

購読料 年間 24,000円 (前納)

1部 520円

週刊

循環経済新聞

The Recycling Economy Times

ジー・エス

京浜島に新中間処理工場

埋立減らし、リサイクルへ

破碎・RPF製造など

産業廃棄物の収集運搬・中間処理、一般廃棄物収集運搬、解体工事などを手がけるジー・エス(東京・港、郷成社長、☎03・5755・8853)では新たに、分別や破碎、RPF(固形燃料)製造などを行う京浜島工場(東京都大田区)が完成、本格稼働を開始した。処理能力(混合)は破碎が1日あたり13・2t、RPF製造(圧縮固化)が4・8tで、設置にあたっては廃棄物処理

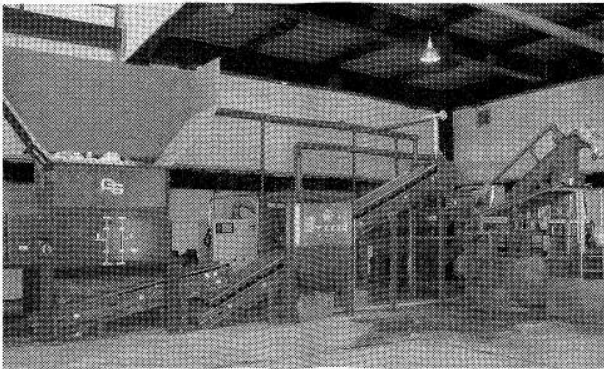
法の設置許可に加え、建築基準法第15条の認可を得た。郷社長は「国内でリサイクルすることを重視した。周辺との調和を考え、工場の外観もきれいに仕上げた。従業員にも誇りをもって働いてもらいたい」と述べている。同社の設立は1991年で、これまで本社工場を拠点に収集運搬や破碎処理などを行ってきた。今回の新工場は、従来、破碎して東京都中央防波堤外側処分場に埋め立てていたものを減らし、

リサイクルにまわす量を増やすことを目的とするもの。廃プラなどについては当初、圧縮して輸出・リサイクルすることも検討したが、安心や将来性を考えて国内でまわせる方法にした。ストックヤードや処理施設は屋内に設けた。破碎施設は1軸式で、廃プラと紙くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、木くず、がれき類を細かく破碎する。RPF製造施設は廃プラ

さわやかな外観



破碎・RPF製造ライン



と紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくずを対象に、これらを調合して必要な熱量のRPFをつくる。設備一式はフジテックスが手がけた。大まかにより分けたも

のを破碎機にかけ、RPF原料にするものと外部業者でサマルリサイクルするものを、埋立処分にあつては、製紙会社で

利用することになっている。